

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価の調査項目です)

取り組んでいきたい項目

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念をスタッフ全員が理解する事に努めるとともに、具現化できるよう取り組んでいる。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念を玄関、各フロアーに掲示し、外来者の方々に對してもお知らせして行くと共に、スタッフも常に確認できる様になっている。又、ミーティング・勉強会時に、実践に向けての取り組みを確認し、ケアに反映できるように努めている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議・家族会等を通して、町内会長・民生委員・家族の方にホームの理念、活動を報告している。	○	ご家族や地域の交流を通して、理念の浸透に努めたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ご近所の方にお会いする際は、入居者様、職員と共に積極的にご挨拶、声掛け等を行っている。今後も気軽にホームに立ち寄って頂けるように努めたい。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	清掃などの地域活動に参加させて頂いている。今後も積極的に地域の方々との交流を持つことに努めたい。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現状は、ホーム利用に関しての問い合わせ対応にとどまらず、福祉分野全般の相談に応じている。事業所の持つネットワークを活かして関係窓口につなげている。		
3. 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初回評価の為、ミーティングの中で「外部評価の意義と理解」を深める時間を設け、スタッフの周知を図っている。又、「全体目標」として項目を月ごとに設定し、取り組み状況を確認している。出された評価により、改善点を明確にして、今後のケアに反映する指標としてスタッフの理解を得ている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議・家族会等を通して、町内会長・民生委員・家族の方にホームの理念、活動を報告している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の研修には、積極的に参加し、担当者の方とお会いする機会を持つよう努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修・内部研修を開催し、学ぶ機会をもっているがまだ知識不足で出来ていない。状況に応じて専門機関に相談している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過こされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待誘因を含みそうなケアの場面が見受けられたら、その場で、振り返りを行い、防止の重要性を認識できるよう、意識を高めると共に、理解を深める努力をしている。勉強会を通じて学習する時間を設けている。外部研修会にも参加している。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間をかけ、全ての読み合わせを行い、一項目ごとにご家族の納得、理解が得られるまで、説明している。入居にともなうリスク要因や重度化した際の対応についても同意を得ている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者、職員が、個別に接する時間を設けている。必要に応じて、ご家族や友人等、関係者に連絡を取ったり、また要望をケアプランに反映させて行くように努力している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	近況報告は面会時、又は電話で随時行っている。金銭管理については、現金出納帳のコピー・領収書と共にご家族に手渡し、郵送している。職員の異動は、その都度ご家族に報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談窓口を明記した内容を掲示するとともに、意見箱を玄関に設置している。契約時には上記の内容と共に行政の窓口も説明している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体ミーティング・フロアミーティングを実施すると共に、随時個人面談を行い、スタッフの意見を聞く機会を設けている。現状を共有する中で、意見や提案を聞き、ホーム運営に取り入れている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者は、入居者様の状態に応じた対応が柔軟に取れるような体制作りに努めている。24時間オンコール体制をとり、夜間や緊急時も速やかに勤務調整が図れるように努めている。管理者が対応不可の日は、あらかじめ代行してくれる職員をたて、職員の混乱が生じないように努めている。		シフト表は、職員の希望を最大限取り入れる配慮をしている。休日までの間隔も、職員全体の公平性を考慮しながら、休息が確保できるように努めている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	他のユニットからフォローする場面を作る事により、入居者のストレス、ダメージが少なくなるように努めている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○ 人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	雇用の原則を順守している。就業規則に従い、採用後は一人ひとりの長所や経験を伸ばすことができるように、配慮している。		
20	○ 人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修・内部研修を開催し、入居者様、ご家族、職員の人権を尊重することを念頭に置き取り組みをしている。		
21	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市主催の研修には、積極的に参加している。職員のスキルに応じた内容の研修があれば、今後も積極的に参加するように努めたい。内部研修の充実化を図れるよう、委員会を設置し取り組みをしている。月1回のホーム内研修を定例化して実施している。		
22	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「福岡県グループホーム協議会」・「ホスピス緩和ケア・ネットワーク福岡」の勉強会等にて外部との交流を図っている。		
23	○ 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	上司・管理者と話す機会はあるが、ストレス等の緩和、解決には結びついていない。	○	定期的な上司・管理者と十分に話ができる機会を増やしたい。
24	○ 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	日々の中で、会話をする機会を持つ努力をし、意欲向上を喚起したり、研修参加の促しや啓発を行っている。また、人事考課を設け、個人個人のスキルアップに取り組んでいる。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前調査の段階から、十分な時間を取り、聞き取りの時間を設けている。本人の思いをケアプランに反映させ、ニーズに応える努力をしている。		
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前調査の段階から、十分な時間を取り、聞き取りの時間を設けている。必要なケースにおいては、電話連絡や訪問の機会を持ち、ご家族の不安解消にも努力している。		
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分な時間をかけ、利用者の健康状態や精神状態の把握に努め、必要に応じて、適切な窓口につないで行く努力をしている。方向性が変わり、入居を取りやめるケースも生じているが、本人家族にとってより良い生活環境が提供できることに重点を置いた対応を心がけている。		
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入院中の方には、「お見舞い」の形で面会に行き、入居時にはその職員が必ず出勤しているようにしている。知らない場所に来たという不安感を最小限にとどめる努力を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に行動することをケアの原点とし、入居者様と接している。わずかな事でも、達成感を感じて頂けるような支援を心がけている。		
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	連絡相談を細やかに行い、入居者様の事を一緒に考える姿勢をとっている。ご家族側からもご相談が寄せられるようになった。入居者様の現状を評価しながらより良い方向性を見極めていく努力を行っている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居により御家族との関係性が疎遠にならないように、生活状況を面会時にお話ししたり、電話でのご連絡を細やかに行い、存在感が希薄にならないように努めている。時に入居者様の思いを仲介し、ご家族にお伝えすることも行っている。		
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	ご家族の協力が不可欠な状態ではあるが、出来る限り入居者様の意向に沿い支援に努めている。		
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員の仲介を適宜行い、関係性が維持できるように努めている。ケアの基本と考え、職員に周知している。		
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	開設より現在退去者はいない。今後の取り組みとして他施設に転所された際は、面会に訪れたり、顔なじみの関係性を継続することに留意している。その中で、新たな相談ごとが生じたご家族等に関しては、相談・助言できるよう努めたい。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりを通じて、入居者様の思いを理解できるように努めている。行動の観察を通じ、得た情報をミーティング等で取り上げ、ケアに反映できるかどうか検討している。また、ケアプラン作成時に、入居者様やご家族に意向や要望などを聞いて把握に努めている。		
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	身元引き受け人の方からの聞き取りに留めず、入居前から入居後も、ご本人を知っている方々より、生活歴の聴取をさせて頂き、現状に至るまでの把握に努めている。その上でご本人が大切にされていた習慣等を、生活に取り入れられるかどうか検討を行っている。		
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	持っている力に注目し、スタッフは補完的なお手伝いに徹している。介護の手を広げるのではなく、個々の入居者様を見つめる目を大切にし、必要な支援のあり方をミーティング等で検討をかさねている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス会議を定期的開催し、入居者様の現状把握に努め、本人・ご家族の希望のもと、ケアプラン作成を行っている。ご家族が面会に来られた時には、意向の機会として大切にしている。		
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	概ね3カ月を目安に作成、更新を実施している。また入院や身体状況に変化が生じた時には、早急にケアカンファを実施し、ケアプラン作成に取り組んでいる。会議のご家族参加は、なかなか得られない状況であるが、事前に意向の確認を行っている。また、必要に応じて医師や関係各署に連絡、助言を頂いている。今後ケアカンファに参加して頂ける体制づくりに努めたい。		
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録を記入し、申し送りや連絡ノートの活用により、情報の共有化に努めている。入居者様に変化が生じた場合は、短時間でもミーティングを持ち現状の把握に努めている。具体的な記録を残すことに、留意しケアプランの見直し、検討に努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者様の身体状況やご家族の状況に応じて、病院受診の支援や外出及び付き添いの支援を柔軟に対応している。また、ご本人、ご家族の意向に配慮しながら、ご家族の方へ食事の提供も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	積極的に関わって行きたい項目であるが、現在入居者様の意向に沿った活動、支援は出来ていない。	○	ホーム外の生活の幅を広げる導入を検討していくと共に、入居者様の意向に沿った活動が展開できるように努めていきたい。
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人様の意向に対して、家族とも話し合い、サービスを導入するようにしている。情報を共有してもらうことも含めて、他事業所の方とも連絡をとり、可能な限り支援していく努力は行っている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現時点では、相談者や入居者様に生じた問題等に対し、意見を頂く程度の関わりとなっている。運営推進会議には、ご参加頂いており、地域の福祉情勢等の情報・説明して下さっている。今後、施設間の行き来を行い、関係性を深めるよう努めたい。		
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医、入居前のかかりつけ医や専門外来の医療を受けられるよう配慮している。往診医は24時間オンコール対応となっており、連携は強化できている。受診にはご家族の状況によって、職員が付き添い情報提供を行い、結果を職員間で共有してケアに反映させている		
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	往診医は、認知症高齢者の医療に対する見識が高い。昼夜を問わず、職員の問い合わせに応じていただける。又、状況・状態に応じて、専門外来に受診できるようにご家族と協力体制を取れるように努めている。		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週3回看護職員が勤務している。入居者様の健康管理や状態に応じた支援を行えるようにしている。体調や状態の変化があれば、すぐに看護職に報告し、適切な医療につなげている。		
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	面会を頻回に行い、顔なじみの関係性の維持に努めている。病院関係者との情報交換を十分に行い、退院の時期を早期に見極めていく努力をしている。本人の状態把握を行うことも並行し、退院後の生活の整備も行っている。		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員には機会があるごとに、話し合いの場を設け方針の共有を図っている。本人、ご家族にも時間をかけ、方針の説明を行うとともに、希望の聞き取りを合わせて行っている。可能な範囲で、希望をくみ取るように努めており、不安感の除去を図っている。		
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	往診医・看護師と緊密に連携をとり、ホームで成しえる範囲を明確にしている。職員とも対応のあり方を勉強会を通じて共有を図っている。ご家族にも適宜、状況をお話しており、起こりうる変化をお伝えしている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	生活の場所を移って頂く可能性が生じた時点で、方向性の確認を早い段階で行うようしている。ご本人やご家族にも不安感や負担感を抱かせないように配慮し、ホーム側も一緒に考えながら関わる努力をする事を説明している。他の施設等に移動される際には、ケアプラン・サマリーをお渡しし、情報交換を行いケアが中断されることのないよう配慮している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	守秘義務の中で職員が入居者様の情報を共有し入居者様に合った言葉かけや対応を心がけ支援している。		
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の思いに出来るだけ近づけるよう、個別に話をする機会を設けたり、理解しやすい言葉で説明しながら希望を聞き取ることに努めている。また、選択肢の中からご本人が自己決定できるよう支援している。		
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活全般を通じ、本人のペースで対応できるよう留意している。一人ひとりの状態や希望に対し、配慮しながら柔軟に応じている。申し送り時に入居者様のその日の体調や様子などを確認すると共に、具体的に記録を残し、職員間で情報を共有し支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	気候や季節感にも配慮し、調整を時に行うことも有るが、その人が好むものを着用できるよう支援している。理美容に関しては、ご本人、ご家族の希望を聞き入れ回数の設定を行っている。		
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備の段階から、入居者様に一緒に関わって頂いている。スタッフ全員が入居者様と同じテーブルで食事をしている。「食事を楽しむ雰囲気づくり」に配慮している。また、お茶碗やお箸、お湯のみ等馴染みのものを使用して頂いている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	アルコール、おやつ、ジュースなどの好みの物を一緒に買物に出かけたり、希望・状況に応じて楽しめるように支援している。		
58	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄・水分チェック表を活用しながら、トイレにお誘いしている。さりげない介助ができるよう職員も認識を持ち対応している。		
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は固定しておらず、ご本人の希望体調を考慮を対応している。準備、着替えの洋服選び等一緒に行うことで満足感を得て頂けるよう配慮している。現在月1～2程夕食後に入浴して頂いている。入居者様の希望に柔軟に対応できる体制作りに努めたい。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者様それぞれの意思や、また身体状況によっていつでも休息できるよう、居室内の環境は常に整えている。ご本人が安心してくつろげる空間づくりに努めている。(採光調整・室温・換気等含め) また、ご本人様が望まれる場所で気軽に休息できる環境を用意している。(ソファ・簡易ベッド等)		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味や関心事等、家族からも情報収集し、生活の中に取り込む努力をしている。日々の暮らしの中でそれぞれの力を発揮出来る場面が持てるよう努めている。		
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの状態に応じて、金銭管理を支援している。買物・外食に出かけた際、自身で支払っていただく機会を設け支援している。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出来る限り支援を行うようにしているが、時間帯や職員体制により出来ないこともある。	○	ご家族の御協力、社会資源を利用しての外出支援を行っていききたい。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段の関わりの中で、希望されるところなど把握に努めていますが、遠方だったり希望に沿えてないことが多いのが現状です。	○	今後、希望沿えるような体制づくり、ご家族等の協力を得て実現に努めたい。
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるように支援している。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の設定はあるが、基本的自由に訪問してもらっている。訪問時には、リビング、居室など要望に応じてご案内している。又、簡易ベット・寝具を準備しており宿泊可能な体制をとっている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての外部研修、内部の勉強会などを実施して、身体拘束のないケアに取り組んでいるが、スピーチロックを行うことがある為、拘束になっていないか、常に確認、意識しながらケアに努めている。	○	職員同士の意識、技術の向上を図り、身体拘束のないケアを今後も継続していくよう努めたい。
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	フロアの玄関は、24時間施錠はしていない。ドアを開けるとチャイムが鳴るようにして、安全面に配慮している。ホーム玄関についても朝7:30～夜20:30迄は施錠していない。入居者外出されたい様子、希望される場合には、さりげなく声掛けを行い一緒に外出するなどして対応している。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、入居者と同じフロア内で、記録等の作業を行いながら全入居者の状況を把握するように努めている。昼夜問わず所在・様子を確認すると共に状態に応じて対応している。		
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の状態に応じて、保管管理が必要なもの、入居者が使用する際に注意が必要なものを分けて管理している。例、爪切り、裁縫道具、のこぎりなど		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態から予測される危険性を検討し、未然に防ぐ為の工夫をしている。起った事故等に関しては、書類(ヒヤリハット・事故報告書)に記入し、原因分析に努めている。		
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時マニュアル勉強会を通じて訓練しているが、全職員熟知しているとはいえない。	○	外部研修・勉強会を通じて意識付けを行い訓練に活かされるよう努めたい。
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルを作成し、スタッフに周知するとともに、年2回の避難訓練をしている。内1回は、夜間想定で実施、職員の緊急招集訓練も兼ねて行なっている。		
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入居時にリスクについての説明はしているが、症状の変化・身体機能低下によるリスク等は随時、ご家族に報告している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の業務の中で、健康管理は細心の注意を払っている。出勤時、朝夕の巡視を実行し、入居者様の状態を共有している。往診医・看護師・管理者の3者と24時間オンコール体制をとっており、緊急時対応を速やかに行える体制をとっている。緊急時マニュアルもスタッフが見やすい場所に掲示している。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報・服薬チェック表など活用している。副作用については全員理解しているとはいえない。症状の変化については、その都度、主治医・看護師に報告している。	○	今後外部研修、内部の勉強会など通じて薬に対する理解を深めたい。
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄・水分チェック表を活用している。繊維質の多い食材を取り入れたり、体操、家事活動等身体を動かす機会を個々の状態に応じて設けている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に、個々の状態や能力に応じた支援を行っている。歯間ブラシのみ介助をしている。又、定期的に歯科医院・訪問歯科にて歯石除去を行っている。		
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と1日の食事及び水分摂取量を把握している。入居者様個々の状態に合わせて食べやすい食事形態で提供できるようにしている。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルに従って実践している。手洗い、うがいの励行やインフルエンザ予防接種など予防努めている。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒マニュアルに従って、食中毒の予防に努めている。包丁まな板・布巾等の消毒		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関・駐車場までの間にはスロープ、手すりを設置し安全に配慮している。玄関中央には、プランターを置き、誰もが親しみやすい環境づくりに努めている。		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やリビングなどの共有空間には、花、写真、絵画などで、家庭的な雰囲気を感じられるよう工夫している。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールにテーブル・椅子を設置し、絵画・写真などの装飾で居心地の良い空間を作っている。又、食堂、居間が一体的なつくりで、全てが視界にに入りやすく、多少圧迫感がある為、ソファ・ダイニングテーブル・椅子の配置に配慮するなど落ち着いてくつろげるスペース作りに取り組んでいる。		
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や思い出の品、写真など生活習慣を大切に安心していただける居室作りを行っている。		
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間換気システムを導入している。室温も各居室にある室温計を確認、入居者様の様子をみながら調節している。空気清浄機、加湿器など必要に応じて活用している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の状態に応じて、手すりや浴室、トイレ、居室等住環境が適しているかを見直し、安全確保と自立への配慮をしている。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自室前に表札を掲げたり、案内版を入居者様の目の高さに設置する等、誘導表示を活用し、混乱なく自己判断にて行動できるように工夫している。		
89	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	野菜づくり等、入居者様、ご家族様のご協力のもと行っているが、継続することが出来ていない。今後、入居者様、ご家族様と共に活動出来る場として活用していきたい。		

番号	項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する番号欄に○印をつけること)	
V. サービスの成果に関する項目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	☐	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	☐	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	☐	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	☐	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	☐	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	☐	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	☐	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	☐	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

番号	項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する番号欄に○印をつけること)	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない